

2 - 3 重点事業評価

事業名

県内図書館等との連携協力の推進

(1) 事業の概要

● 対象

県内の市町村立図書館・公民館図書室・大学図書館・試験研究機関等。

● 意図・目的

本県公共図書館の中核としての県立図書館に対して、「図書館の中の図書館」としての役割への期待も大きいことから、県内の市町村立図書館等に対する業務協力を行ない、県民に対する幅広い読書推進活動を進める。

● 具体的取組の概要

①県内の小規模自治体の読書環境の整備と読書活動を支援するため、今年度新たに対象地域の図書館・公民館図書室に対し、資料の長期一括貸出を行う。また、モデル事業として、遠隔地域の市町村立図書館・公民館図書室に講演会講師を派遣し、郷土文化に関する講演会等の開催を支援する。

②引き続き、県内の市町村立図書館・公民館図書室・大学図書館・試験研究機関等に対して、訪問相談や研修会の講師等の派遣を行う。

(2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
小規模図書館等への年間長期一括貸出館数・冊数（新規）	年間10館・1,000冊	年間13館（延べ） 1,300冊 （達成率130%）

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価	A	目標を大幅に上回る結果となった。
------	---	------------------

A 目標が十分に達成された。 B 目標がある程度達成された。
C 目標の達成が不十分である。 D 目標を達成することがほとんどできなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズ又は図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	読書環境が充分でない県内小規模自治体の図書館・公民館図書室に対する支援は、県民サービスの一環として県立図書館としての本来業務であり、従来よりニーズも把握していることから、妥当と考えられる。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	貸出館を通じて、学校図書館や地域の放課後児童クラブへ貸し出すことで、学校図書館等への支援にもつながったことは大きな成果と考えられる。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	初年度であることから、小規模図書館の要望を調査した上で資料を揃え、職員が資料を直接持参したことで、情報交換やニーズの把握を行うこともできた。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など

現在は児童書7セット（計700冊）のみであるが、市町村からの要望も踏まえ、貸出用図書を充実させるとともに、ホームページ等での広報にも力を入れていきたい。

(5) 図書館協議会意見

新たな取り組みである、長期一括貸出と講演会講師派遣事業に対しては、多くの委員が次のように今後の期待感を示している。

- 一括貸出の貸出館数や冊数が増えていくことは、他の県民サービス向上とも結びつくことであり、今後の一層の充実を望みたい
- 小規模図書館の読書活動を支援するためにも、一括貸出の態勢を整えていただきたい
- 一括貸出が、図書館と学校図書室の関係を深めることにも通じるとの説明に感銘を受けた
- 講師派遣事業は、郷土文化や郷土史に関心の深い派遣先図書館利用者の期待に応えて好評である
- 講師派遣は大好評であり、次回開催を待ち望む多くの声も聞いている。まだ開催されていない市立図書館などでも、ぜひ開催されると良いと考える
- 郷土文化を深めるためにも、種々の講演活動の推進を願っている

さらに、

- 一括貸出については、貸し出した図書をどのように読者へ届けるかについての指導も必要である
- 対象地域での効果を成果として表せるような指標が設定されるとよい

など、運営面での提言も出された。

県内図書館との連携協力全般については、

- 図書館間の「ひと」の連携があつてこそ、効果が上がるものである
- 各図書館の特性・特徴を生かした連携・協力を継続してほしい
- 市町村立図書館と学校図書館の連携が求められている中で、そのために県立図書館が果たすべき具体的役割を明らかにしていく必要がある
- 大学図書館や試験研究機関との連携のあり方について、先進事例や連携のモデルを県内図書館等の参考に提示できると良い
- 県内での、県立図書館主催のイベントを充実してほしい
- 毎年実施されている研修事業や館長会議等も、ソフト面での連携協力として意義がある
と考える

等の意見や要望が出された。